

説教

聖日礼拝 北浜チャーチ

黒田 禎一郎

2021年5月2日(日)

主 題：「互いに謙遜を身につけよう」

—へりくだりの神—

テキスト：第1 ペテロの手紙5章5～7節(7節)

はじめに

- ・ペテロがこの書簡を離散ユダヤ人クリスチャー頃は、様々な困難と迫害が起こっていた時代に、今日のトルコの西部と北部にあたる地域らはローマ帝国の支配下に置かれ、カエサルされていました。それが皇帝崇拝の強制につながった。
- ・日本も約75年前までは、天皇崇拝を強制された。私たちの多くは、その事実を知りません。ただ親からあるいは学校で、戦争時代の様子を聞く範囲であります。しかし当時、迫害を受けて投獄された牧師たちがいたことを忘れてはいけません。信仰の自由とは、ほんとうにありがたいことです。
- ・ドイツでもアドルフ・ヒットラー (Adolf Hitler) の時代、同じくヒットラーに忠誠を誓うことが強いられました。青年たちも Hitler Jugend(ヒットラー青年団)として、イデオロギーを植え付けられました。そこでキリスト教会は大きな試練に会いました。ご存じのように、Dietrich Bonhoeffer 牧師のように殉教する牧師も出ました。
- ・日本も、ドイツも、当時のキリスト教会は2つに分かれました。
 - ① 時の権力者に従ったキリスト教会 (or 信者)
 - ② 時の権力者に従わなかったキリスト教会 (or 信者)
 残念なことは、両者間に溝が生じてしまいました。
- ・現代で言えば、今お隣の北朝鮮が独裁政権下にあります。現在の北朝鮮では選択の自由はありません。金正恩最高指導者に従わなければなりません。しかし北朝鮮にもクリスチャンはいますが、信仰を持つことは許されていません。北朝鮮のキリスト教会は、独裁政権下で大きな制限を受けています。
- ・皆さん。歴史は繰り返しているのでは、ないでしょうか。しかし覚えてください。どのような時代であっても、天地創造の神を信じるクリスチャンがいることです。
- ・ペテロは、そのような苦しみの下にある信者たちを励ますために書いたのが、この手紙です。迫害や困難があっても、群れ(教会)の一人一人がしっかりとした信仰に立つことが必要でした。また教会のリーダーたち、そして信者たちが相互牧会することが必要でした。そこでペテロは「**神の羊の群れを牧しなさい**」と勧めました。今日はその続きであります。2点



ンたちに送った
でした。それは主
の教会でした。彼
に忠誠を強いら
がっていきまし

れました。今日の

大切なポイント

1 謙遜を身につける

5:5 同じように、若い人たちよ、長老たちに従いなさい。みな互いに謙遜を身に着けなさい。「神は高ぶる者には敵対し、へりくだった者には恵みを与えられる」のです。

1) 謙遜を着ること

- ・はじめに、「同じように」とあります。長老たちが神に従い、与えられた責任をしっかりと果たすように、教会の兄弟姉妹も相互牧会し、助け協力し合うようにということです。
- ・これはリーダーたちが一方的に服従させるという言葉ではありません。そこでペテロは「みな互いに謙遜を身に着けなさい」と述べま
- ・皆さんの中には、「今日は教会へ行くのに、何を着ていこうがおられるでしょう。この春どきは、気候が急変すること
- ・皆さん。どんな服装をするにせよ、クリスチャンが身にまとわなければならないものがあります。それは「謙遜」という衣です。ここで使われている「身につけなさい」という言葉は、衣服を着るという意味です。謙遜という衣を身につけなさい、ということです。



ありません。そこ
した。
か」と思案した方
がありますね。朝
くなります。

- ・教会の中でリードする立場の人も、リードされる立場の人も、互いに謙遜であることは大切です。しかし、それが難しいのです。「自分は正しい。相手が分かっていない!」。このように思って自分の確信を譲らず、一緒に奉仕することが難しくなったりすることがあります。ペテロは言いました。

5:5 みな互いに謙遜を身に着けなさい。「神は高ぶる者には敵対し、へりくだった者には恵みを与えられる」のです。

- ・皆さん。謙遜というと、私たちは一般的に腰が低く、頭を深く下げ、控えめな態度を思うことでしょう。しかし聖書がいう「謙遜」(原語: tapeinophrosyne, タパイノフロスイネ) という言葉は、神の前での「自己嫌悪」という意味です。自分が神の前に罪ある存在であることを認め、文字通り悪を嫌う自分のことです。罪を犯してしまい、自分で自分が嫌になってしまい、神の赦しがなければ生きていけない者であると認めることです。それが聖書の謙遜という意味です。

- ・では、「謙遜」という衣を身につける、それはどんな歩みでしょうか。3点

2) 謙遜への道

① 謙遜こそ祝福の道であることを覚える

5節で、ペテロは箴言のみ言葉を引用しました

5:5 「神は高ぶる者には敵対し、へりくだった者には恵みを与えられる」

- ・謙遜こそ、神の祝福にあずかる道です。聖書は謙遜について、繰り返し教えています。

18:12 人の心の高慢は破滅に先立ち、謙遜は栄誉に先立つ。

箴言

心が高ぶる者は、破滅することになります。反対に謙遜な者は神からも、人からも高い評価を受けるといえることです。

4:10 主の御前でへりくだりなさい。そうすれば、主があなたがたを高く上げてくださいます。

ヤコブ

② へりくだりは神の御前でのへりくだりである

5:6 ですから、あなたがたは神の力強い御手の下にへりくだりなさい。神は、ちょうど良い時に、あなたがたを高く上げてくださいます。

- 私たちは、たとえ人の前で誇ることでできる何かがあったとしても、神の前では誇るものはありません。私たちは全てのものを神から受けているのです。ヨブは、繁栄の絶頂から、一気に家族や財産を失うという悲しみを経験しました。その時、こう言いました。

「私は裸で母の胎から出て来た。また裸でかしこに帰ろう。【主】は与え、

【主】は取られる。【主】の御名はほむべきかな。」 ヨブ 1:21

- 私たちは自分の命や財産、人生のすべてが神の御手の中にあることを意識するとき、私たちは神の御前にへるくださる者とされるのではないのでしょうか。

③ 神が心配し、ちょうど良い時に高くしてくださる

- 5:6 神は、ちょうど良い時に、あなたがたを高く上げてくださいます。

5:7 あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。

- この2節には、私にはいくつかのキーワードとなる言葉があります。

6節：「ちょうど良い時」、「高くあげてくださる」

7節：「思い煩い」、「神にゆだねなる」、「神が心配してくださる」

- 別の機会に、これらを順に学んでいければ幸いです。

{例 話}

- 1981年8月、私は家族とともにドイツから日本に帰国しました。

ドイツで12年間、青年期を過ごした私は、帰国して日本の生活リズムに心身が慣れるのに大変でした。その点、子どもたちは日本の生活に速く順応しました。しかし、そのようなカルチャー・ショックがあった頃、家内の実家がある和歌山県の田舎に住むことがきたことは、私にとっては助かり、大変良かったです。

- 神の召命を受けて帰国した私は、生涯を主にお捧げしたものでした。そこで、世の路線からは全く別の道を歩んでいた私には、社会での就職への道はありませんでした。家族5人の生活があり、学生であった私の手持ち金はありませんでした。そこで神の導きを求めて祈ったことを覚えています。

- ちょうどその時（1981年12月）、①海外邦人宣教の推進と、②キリストへの信仰のために迫害を受けた教会（聖徒）への支援を目的とする、「ミッション・宣教の声」を始めたのでした。それは祈りに中で、主が先導して下さったことを覚えています。

それから、約31年の年月が経過しました。そして次第に「ミッション・宣教の声」の働きは、世界の各地へと広がり今に至っています。

- 一方、経済的問題を解決するために、主は「グレイス・外語学院」を始めてくださいました。当時は外国人がまだ珍しい時代で、外国語を学ぶ人が少しづつ出てきた時代でした。この外語学院

を通して、クリスチャン教師によって語学伝道始まり、堺インターナショナル・バイブル・チャーチが生まれました。

その流れは、じつに自然でありました。

- ・今から考えると、私たちの帰国後の生活は神様が先導して下さったことを覚えます。いつも祈ってはいましたが、壁にあたり、いや祈らざるを得ませんでした。

5:6 神は、ちょうど良い時に、あなたがたを高く上げてくださいます。

5:7 あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。

- ・私たちは不安を覚える必要もありません。私たちの神は「ちょうど良い時に」働いてくださいます。何も思い煩う必要もありません。ただみことばに、従順に従うならば結果はついてくることを覚えることができます。
- ・ですから、1) 謙遜を着ること、そして2) 「謙遜への道」に進むことは祝福です。ペテロはユダヤ人クリスチャンへ、そのように勧めました。もう一点学ぶことができます。

2. 神はへりくだりの神

1) 神の前にへりくだる

5:6 ですから、あなたがたは神の力強い御手の下にへりくだりなさい。神は、ちょうど良い時に、あなたがたを高く上げてくださいます。

- ・よくよく考えてみると、私たちは誕生した時、何一つわけではありませんでした。しかし、この世に生を受もは親や周りの人たちの温かいケアによって成長そしてやがて子どもは成長し、自分の力にあった職業よう。



持って生まれた
けてから、子ど
していきます。
を選ぶことでし

- ・今、私たちが持っている能力、立場、資格、そして何よりも命。何一つ私たち自身のものではありません。すべてが神からの贈り物です。ですから、神の前に、へりくだりましょう。私たちが自分のことを知っている以上に、神は私たちのことを知っておられます。そして、ちょうど良い時に、私たちが高く上げてくださいます。
- ・「へりくだる」とは、はじめに学んだ「謙遜への道」のことです。

5:6 ですから、あなたがたは神の力強い御手の下にへりくだりなさい。

そこで大切なことは、神はへりくだりの神であることです。

2) イエス・キリストは「へりくだりの神」

- ・神の御子イエス・キリストは、神の栄光を捨てて人となりました。辱めを受けられ、いばらの道を歩まれて十字架上で苦しみにあわれました。天の父なる神も、ご自分のひとり子を十字架の死に渡すという痛みを通られました。神ご自身が「へりくだりの神」であります。ピリピ人への手紙

2:6 キリストは、神の御姿であられるのに、神としてのあり方を捨てられないとは考えず、ピリピ

2:7 ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。人としての姿をもって現れ、ピリピ

2:8 自らを低くして、死にまで、それも十字架の死にまで従われました。

ピリピ

・イエス・キリストは「謙遜の道」を歩まれた「へりくだりの神」です。

私たちは、このお方を仰いで歩むことができるとは、なんとという幸いでしょうか。

・神ご自身が「へりくだりの神」であるなら、その神に従う私たちが、どうして高ぶることが、できましようか。どうして自らを誇る事が、できましようか。

主の前にへりくだり、私達も主ご自身によって謙遜の衣を着せていただきましよう。

ま と め

主 題：「互いに謙遜を身につけよう」

—へりくだりの神—

・今日も、私たちの主はお語りくださいました。感謝します。私たちの神は「へりくだりの神」です。2点確認しましよう。

1. 謙遜を身に着けること

5:5 みな互いに謙遜を身に着けなさい。「神は高ぶる者には敵対し、へりくだった者には恵みを与えられる」のです。

2. 「へりくだりの神」を仰ぎ歩むこと

2:6 キリストは、神の御姿であられるのに、神としてのあり方を捨てられないとは考えず、ピリピ

2:7 ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。人としての姿をもって現れ、ピリピ

* God bless you !